

中国四国カワウ広域協議会で開催された勉強会について

■開催の目的

- ・ 個体群管理の課題について議論するための材料として、近年管理が前進している中国四国地方から個体群管理の事例を収集し、具体的な事例をもとに、個体数調整などの攪乱をコロニーに対して行った際に、コロニーの分散化に対してどういった対応や準備、体制づくりが必要になるか整理する目的があった。
- ・ 中国四国カワウ広域協議会に合わせて開催することで、参加者が集まりやすくすること、また、中国四国カワウ広域協議会として抱えていた下記の現状に対し、勉強会という場において議論することで、広域管理指針の改訂や今後の対策の推進に資することを目的として開催した。

中国四国カワウ広域協議会の現状

- ・ 中国四国カワウ広域保護管理指針は、短期、中期、長期の目標が記載されており、短期と中期については、期間が定められている。短期の目標では、カワウの生息状況や被害地での飛来数のモニタリング体制の整備（その他もあり）が掲げられているが、県ごとも調査が十分できていないところがあることに加え、調査の方法や時期が統一されておらず、広域全体の状況が捉えられない状態にある。
- ・ 山陰地方については、部会が開催されているが、中国四国地方のカワウの管理において重要な地域である瀬戸内海におけるカワウ管理については、広域連携の方向性がまだ見えていない。

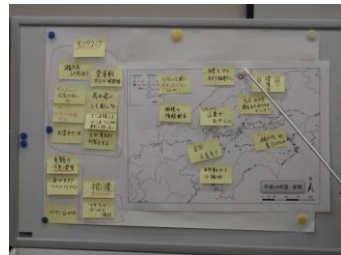
■勉強会の開催

平成 30 年 10 月 22 日に中国四国カワウ広域協議会に付随してカワウに関する科学的計画的な管理勉強会を岡山国際交流センターで開催した。事務所と調整の上、講演を行なった。勉強会の開催にあたっては、事例収集のために、事前に中国四国各県に電話等で連絡を取り、近年の管理の進捗について確認し、勉強会での事例発表について相談を行なったが、多くの県で担当者が年度末に交代していたこともあり、新しい管理事例の情報を収集することは行わなかった。開催の目的に従い、管理の推進に向けた討議の時間を設け、4つの班にわかれて議論を行ない、その内容について各班から発表を受け、参加者の間で共有した。

中国四国カワウ広域協議会
カワウに関する科学的計画的な管理勉強会プログラム

日時：平成30年10月22日（月）13:00～17:30
場所：岡山国際交流センター7階 多目的ホール

1. 開会
2. あいさつ
3. 講義
 - (1) カワウの個体群管理における分布管理と個体数調整（バードリサーチ）
 - (2) 分布管理の現状と最新技術と注意点（中央水産研究所 坪井潤一）
4. 情報共有：モニタリング調査の状況と管理事例発表
 - (1) 中国四国地方におけるモニタリング調査の状況（野生動物保護管理事務所）
 - (2) 鳥取県の管理事例
 - (3) 広島県の管理事例
5. 中国四国カワウ広域協議会における管理の推進に関する討議
 - (1) オリエンテーション
 - (2) 課題の整理と討議
 - (3) 討議結果の発表
 - (4) 専門家による講評
6. 閉会



■勉強会の開催の成果と課題

<成果>

- ・広域協議会ではできない情報の共有を時間をかけて実施することができた。
- ・それぞれが考えるカワウの管理における課題について、各自が書き出し、その課題をグループ化して整理する作業をすることで、課題への理解が進み、その中での優先順位などが見えるようになった。
- ・形式的な会議の場では出てきにくい現場固有の情報が共有されやすく、カワウの管理を概念としてではなく、具体的なイメージを持って考えることができた。
- ・専門家が各班に加わって討議したことで、助言を得ながら、どのように管理を進めて行けばよいのか学ぶことができていた。
- ・課題を書いたり、それを並べ直したり、整理したりする作業を一緒にすることで、参加者間のコミュニケーションが高まった。このことは、以後の県間の連絡等において、重要な役割を担うと期待できる。
- ・中国四国地方では、モニタリングとその統一が重要であるとの認識を、実感を持って各県の担当者が持ち帰ることができた。

<課題>

- ・担当者が交代したことで、具体的な現場の課題について参加者の理解を深めることが難しく、具体的な管理方針などについては、十分な議論をすることができなかった。